

◆◆◆ 第79回日本血液学会学術集会を主催して ◆◆◆

総合医療センター血液内科 教授 木崎 昌弘

平成29年10月20日(金)～22日(日)の3日間、東京国際フォーラムにて伝統ある第79回日本血液学会学術集会を主催させていただき、盛会のうちに無事終了いたしました。会期中は、前線や台風21号の影響で生憎の天候でしたが、6,874名と過去最高の参加者による熱気あふれる活発な討論が繰り広げられました。

3年前に会長にご指名いただいた際に、まず考えたのが学術集会のコンセプトでした。本学の第4次長期総合計画「飛翔」を念頭に、“Innovation and Creation: Advances in Hematology for the Next Generation”をテーマに掲げました。あらゆる血液学の分野において分子病態の解明が進んでおり、それらに呼応するように新規治療薬の開発や臨床への導入が進み、血液学は極めてダイナミックに変動しています。このような血液学の発展に求められている「刷新と創造」をテーマに、今回の学術集会では「国際化」と「若手の育成」を具体的な目標としたプログラム編成を行いました。それに合わせ「飛翔」のイメージするような、蝶々が羽ばたいて舞い上がっている中に、東京のランドマークであるスカイツリーと東京駅、そして病院からみた富士山の写真を組み込んだポスターを作成しました。これらの写真は実際に富川武樹先生が撮影したもので、これまでで最も美しいポスターとの評価をいただきました。

今回の学術集会ではシンポジウムや教育講演の演者は比較的若手とし、さらに海外からの招待講演も大幅に増やし「国際化」や「若手の育成」を念頭にしたプログラムを充実させました。会長シンポジウムでは、国外でPI (Principal Investigator) として活躍している若手日本人5名による「白血病幹細胞」に関する非常にレベルの高いシンポジウムを行いました。また、学問や診療の進歩は周りを取り巻く環境や社会問題を抜きには考えられないとの視点から、①臨床研究、②新専門医制度、③造血器腫瘍の緩和/終末期医療、④女性ヘマトロジストのキャリア形成を話題にしたシンポジウムを初めて開催し、多くの参加者による活発な議論がなされました。一般演題は1,214題の応募があり、うち125題は海外からの演題でした。口演セッションの20%は英語セッションであり、抄録の英語化も合わせ、学会の国際化は着実に進んでいると思います。

音楽を積極的に取り入れたことも今回の学術集会の特徴です。初日のOpening Ceremonyは、シエナ・ウインド・オーケストラのオリンピックファンファーレと荘厳な演奏に始まり、2日目の会員懇親会では、日野皓正氏による「JAZZ for Hematologists」と名付けたミ

ニコンサートを行い帝国ホテル富士の間を埋めた750名の会員の先生方に大きな感動を与えました。また、最終日のClosing Ceremonyでは、参加されたすべての先生方が学会で得られた知識を持って自施設に凱旋できるようにとの願いで、塚田唯子先生(桐朋学園大学作曲科卒業、医学部に進学、現

在東京都済生会中央病院血液内科)編曲によるヴェルディの歌劇アイダより「凱旋行進曲」をピアノ連弾により壮大に演奏していただきました。そして、最後は「ラデッキー行進曲」の手拍子で会場が一体になり、学会は3日間の幕を閉じました。

会員懇親会でご挨拶いただいた別所正美学長やご協力いただいた学内の多くの先生方に感謝申し上げます。また、今回の学術集会がかつてない高い評価をいただいたのは、この3年間、私とともに日常の忙しい業務をこなしながら準備を行ってきた診療科の先生方と秘書の皆さんの力の結集の賜物です。学術集会が盛会裡に終了したご報告とともに、ご支援、ご協力いただいたすべての皆様に御礼申し上げたいと思います。

